

自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより

も く じ

- ・企画展「発見！地中に眠る多治見の歴史」・・・・・・・・・・ 1
- ・高田長湫 9 号・10 号古窯跡発掘調査・・・・・・・・・・ 2
- ・文化財講座 講演会「西浦圓治と美濃焼物」・・・・・・・・ 2
- ・こけいざん森の家フェスティバル・・・・・・・・・・ 2
- ・平成 29 年度 北小木のホタル生息数調査結果・・・・・・・・ 3
- ・高田のハナノキの倒木について・・・・・・・・・・ 3
- ・さまざまな文化財調査をおこなっています！・・・・・・ 4
- ・コラム多治見の祭り～陶祖祭～・・・・・・・・・・ 4

企画展

発見！地中に眠る多治見の歴史

—住吉・駅北・笠原の発掘調査報告展—

期間：平成 29 年 9/19（火）～平成 30 年 2/2（金） 場所：多治見市文化財保護センター展示室

私達が住む街は、日々変化を続けています。交通の利便性の向上を目指し、災害から街と人を守ることなどを目的に開発が進むことで、市民にとって暮らしやすい街づくりが進められています。一方で開発により、地中に眠っていた大昔の人々の暮らしの跡や道具などの埋蔵文化財が失われつつあります。それらがやむを得ず失われる場合は、事前に発掘調査を行い、得られた成果を実測図や写真で残す、記録保存という方法がとられます。発掘調査では、住居を建てたり、水路を築き田畑を耕作したり、窯を築いて



▲住吉 16 号窯出土緑釉色見

陶磁器を焼いたりといった、数百年から数千年以上前の人々の暮らしや文化を知ることができます。

今回紹介する遺跡は、近年の多治見市内における土地区画整理事業に伴って発掘調査が行なわれた住吉古窯跡群、七ツ塚遺跡、砂田・総作遺跡、権現遺跡です。住吉古窯跡群は平成 25 年から約 1 年かけて発掘されました。平安～鎌倉時代に稼動した窯が 13 基見つかり、その中でも緑釉陶器専用窯である住吉 16 号窯の発見は話題になりました。七ツ塚遺跡は多治見駅北に存在する多治見市内最大級の集落遺跡です。この遺跡では大規模な灌漑用水路の跡や住居跡が発掘された他、土壌の科学的な分析によって稲作が行われていたことも明らかになっています。笠原町の砂田・



▲七ツ塚 7 次水路跡

総作遺跡、権現遺跡では、縄文時代より生活が営まれ、古墳時代と中世の住居跡が見つかっており、集落が形成されていたことが分かりました。このように多治見市内で発掘される遺跡は古窯跡・集落跡など時代も種類もさまざまです。古窯跡は東濃の特徴的な遺跡であり、数多く発掘され研究も進んできました。また、集落跡の調査からは、昔の人々の生活や当時の土地利用の様子を知ることができ、地域の歴史研究にとって貴重な資料となります。今回は膨大な発掘出土品のごく一部の展示となりますが、この機に身近な郷土の歴史の一端に触れていただき、埋蔵文化財に対する理解を深めていただければ幸いです。

高田長湫 9 号・10 号古窯跡発掘調査

場所 高田町長湫地内

期間 平成 29 年 2 月 1 日～5 月 31 日

調査面積 約 760 m²

高田長湫 9 号・10 号古窯跡は、市の北東部、高田町長湫地内にあり、標高 220～230m 南向き斜面の西側に 9 号窯、東側に 10 号窯が位置しています。高田町長湫地内では、これまでに高田長湫 1～10 号古窯跡が発見されており、全て中世の山茶碗窯と知られています。

9 号窯では、窯体と竈^{かまど}状の遺構が検出され、窯内と物原から山茶碗の碗、小皿、壺類等や窯道具が出土しました。竈状遺構は、9 号窯体の焚口東脇から検出された直径約 1m の楕円形の遺構です。焼けた土が確認されるなど、この遺構は竈として作られたものと考えられますが、遺構に伴う遺物は出土しませんでした。10 号窯では、



▲高田長湫 10 号窯完掘状況

窯体・複数の土壇・ピット・作業場遺構と同遺構に伴う溝状遺構（排水溝）が検出され、この遺構や物原から膨大な量の山茶碗の碗、小皿、水注等や窯道具が出土しました。9 号窯と 10 号窯は、ともに 13 世紀後半から 14 世紀初頭の山茶碗窯と考えられます。遺物と窯体の観察から 10 号窯の方が新しい時期の窯体と考えられ、9 号窯から 10 号窯へと連続して稼働したものと推察されます。

▼ 高田長湫 9 号窯完掘状況



▲ 高田長湫 9 号窯 竈状の遺構

文化財講座

講演会「西浦圓治と美濃焼物 古文書を中心に」

平成 29 年 5 月 27 日（土）

ヤマカまなびパーク 7 階 多目的ホール



▲展示の様子や古文書を紹介しました

企画展「幕末の陶器商 西浦屋」の関連イベントとして、多治見市文化財審議会会長小木曾郁夫氏を講師に迎えて講演会を開催しました。幕末～明治初期に活躍した西浦家初代～3 代を中心に、美濃焼物の取締や江戸への販売、江戸城へ納めた御用焼について、古文書や市内から出土された幕末の陶磁器などで解説していただきました。市内外から 130 名ほどの聴講者がいらしていました。

こけいざん森の家フェスティバルに参加しました！

平成 29 年 8 月 6 日（日）

こけいざん森の家

弁天町のこけいざん森の家で夏休みの子供向けイベントが開催され、文化財保護センターは展示と体験コーナー、虎溪山一号古墳の見学会を行いました。

体験コーナーには、弥生時代の衣服（貫頭衣）体験、火おこし体験、土器パズルの 3 種類を用意しました。土器パズルは土に見立てたペットボトルのフタの中から、土器のパズル片を見つけだし、パズルを完成させるという体験です。

小さい子どもでも楽しめる体験で、掘るといふ発掘の要素もあり、何度も挑戦する子もいました。



▲土器パズル体験の様子

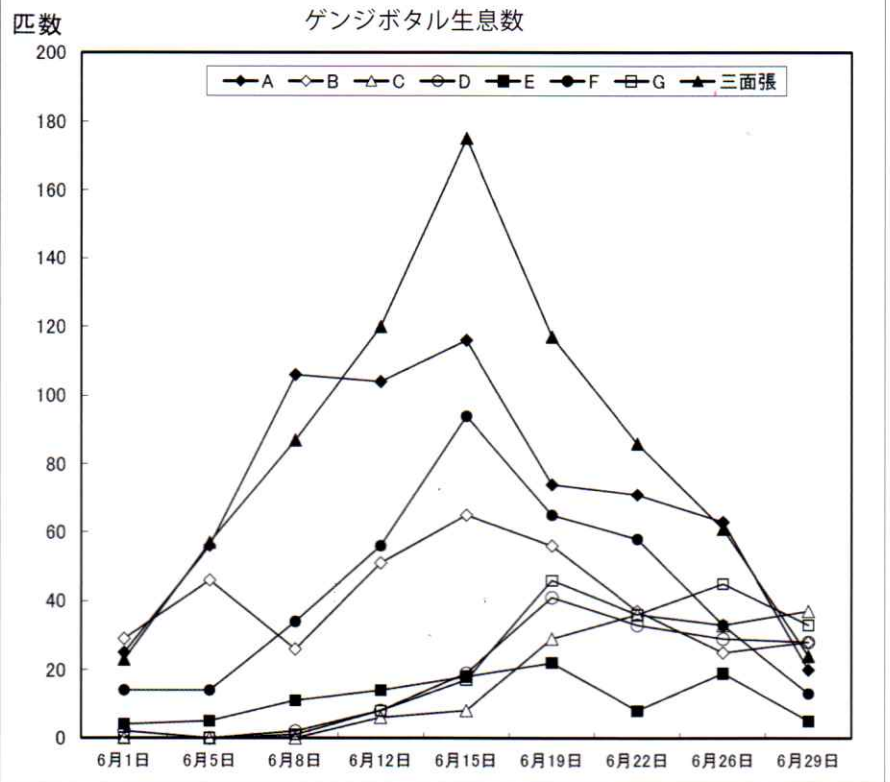
平成 29 年度 北小木のホタル生息数調査結果

北小木町に毎年数多く飛び交う「北小木のホタル」は、多治見市天然記念物に指定されています。その発生状況について、今年も6月初めから7月半ばにかけて、ゲンジボタルとヘイケボタルそれぞれの調査を行いました。

ゲンジボタルは3年周期で大発生することが分かってきています。前回の大発生は平成26年でしたので、今年は大発生すると予想していました。しかし、大発生とはならず去年より少し増えただけでした。これは、今年は気温や湿度が低く、ほとんど雨が降らなかったことが原因の1つではないかと考えています。今後も記録を蓄積し、ホタル保護に役立てていきたいと思ひます。

ヘイケボタルについては一之洞地点で少し増え、その他の地点では去年とほとんど同じ生息数でした。北小木町では田の水を1度切って乾田にする方法で稲作しているため、昨年北小木町のご協力を得て、ホタルが生息しやすいように一之洞と神明洞地点の田の一部を常に水が入っている状態にしました。また、今年はホタル調査時期に乾田にはなっておらず、田に水が入った状態でした。こうしたことが今回の一之洞地点のホタル数の増加につながった可能性があります。神明洞地点では増加していないため、今後どのような環境がホタルにとって生息しやすいのかを模索していきます。

最後になりましたが、ボランティアに参加くださった方々、北小木町や関係者の方々に、この場を借りて深くお礼申し上げます。



A地点：天王橋上流 B地点：天王橋下流 C地点：打越橋上流 D地点：打越橋下流
E地点：宮下橋上流 F地点：宮下橋下流 G地点：八曾橋上流 三面張：三面張改修地点

市天然記念物 高田のハナノキの倒木について



平成29年6月20日17時すぎ頃、多治見市天然記念物である「高田のハナノキ」が倒れました。以前から幹の腐れが進行していたため、平成19年度に樹勢回復工事を行いました。傾斜地に生息していたこととハナノキの北側の枝が南側よりも張り出して重心が不安定となっていたところに、強い風が吹くことによって倒れたとみられます。今後の対応については専門家、所有者の意見を聞きながら決定していく予定です。

倒木の様子 根元から折れ曲がっている

真紅の可憐な花をたくさんつけていた

今年3月撮影



さまざまな文化財調査をおこなっています！

文化財保護センターでは市内の歴史資料や珍しい動植物の調査を随時行っています。軸物調査では多治見市図書館郷土資料室とともに市内の寺院に残されている掛け軸調査をおこなっています。1点ずつ写真撮影と計測をして、台帳作成をおこないます。中には江戸時代に何度も修復をして大切に守られてきた掛け軸もあり、新たな多治見の歴史を発見することができます。また、旧中央線7号トンネルに珍しいコウモリが生息しているという情報を得て、平成26年度より専門家とともに調査をしています。通常私たちがよく目にするのはイエコウモリ（油コウモリ）といわれるコウモリが大半ですが、このトンネル内にはキクガシラコウモリやコキクガシラコウモリが群生しており、一年を通じてそこに生息しているか、

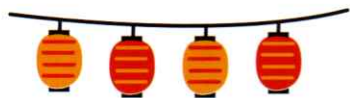


繁殖しているのか等を調査しています。

地域の歴史研究会と調査をおこなう場合もあります。昨年度からは根本地域に残る石灰窯の調査を根本の歴史研究会とともにおこなっています。石灰は古くから農業用肥料として使用される一方で、明治時代以降は焼物の原料としても重宝され、多くの村で石灰を精製する窯が作られました。根本では石灰の採掘場や窯跡と思われる遺構を見ることができ、その実測などをおこなっています。

◀ コキクガシラコウモリの成獣

(※トンネル内は危険なため立ち入らない様にして下さい)



コラム 多治見の祭り ～陶祖祭～



市内ではいろいろな祭りがおこなわれています。なかでも春の祭りを代表するのが「陶祖祭」です。陶祖とは窯業生産地で中世以降に窯を開いて陶磁器生産発展の礎となった人物です。東濃地域の各生産地にそれぞれの陶祖があり、陶祖碑が建てられています。各地域で4月を中心に陶祖祭がおこなわれます。

4月第2土・日曜日には平野町の平野公園内にある美濃陶祖碑前で、美濃陶祖加藤景光・多治見陶祖加藤景増の偉業を顕彰する神事がおこなわれます。また近年は、明治時代の陶器商加藤助三郎と製陶家5代西浦圓治を「陶商祖」として祭祀をおこなうようになりました。この2日間は、多治見陶磁器卸商業協同組合の組合員を中心に本町、小路町、新町で陶磁器販売市や大道芸などのイベントが行われ、市内外から多くの買い物客でにぎわいます。

平野公園内の美濃陶祖碑での神事の様子▶



〈利用案内〉

開館時間：9:00～17:00 休館日：土・日・祝日、年末年始
入場無料

〈交通案内〉

タクシー：多治見駅から約20分

バス：東鉄バス「美濃焼団地前」下車 徒歩5分

自然と人の文化

No.50 2017.10

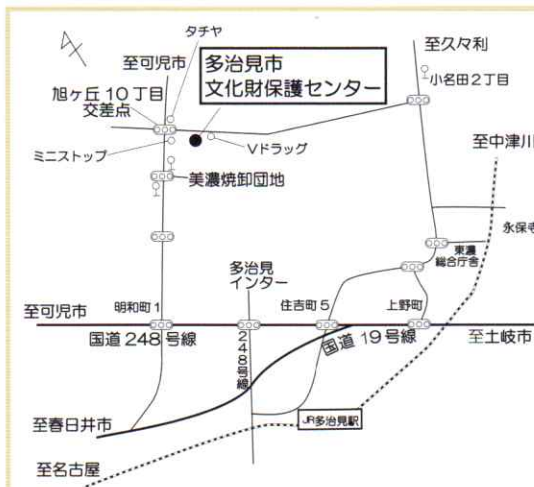
編集／発行 多治見市文化財保護センター

〒507-0071

岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26

TEL (0572) 25-8633 FAX (0572) 24-5033

URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>



発行部数：1300部（25,974円）

この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。